

# JICAガーナ 事務所ニュース

## 所長の一言

1月はJICAボランティア総会で始まり、調査団は生物多様性分野の基礎調査、福島県・JICA共同研修プログラム基礎調査、無償地方電化計画準備調査、人力を主体とした土木施工法普及調査など次々と来訪頂き、年明け早々からおかげさまで大繁盛しました。特に福島県庁の調査団の皆様にはアクラ以外にもクマシ、ケープコースを訪問し、産業振興、稲作振興、道路維持管理、教育・保健の各分野のガーナの現状をご理解頂くとともにガーナの食事や文化などにも触れる機会もあり、今後の研修コース作成の際には実情に即し、かつ、研修員の生活・文化にも配慮したも内容になることが期待されます。

今年はガーナにとって「Year of Action」の年です。1月25日には無償資金協力で整備中の国道8号線（ベクワイ・アシンプラソ間の60kmの改修、アシンプラソ橋架け替え）の起式には副大統領も参加され、日本のインフラ支援への謝意と期待が表明されました。この週には韓国の支援する住宅建設プロジェクトの起式が行われるなど、来年の大統領選挙に向けて今後も様々なアクションがアピールされました。

### 目次

#### 所長の一言

##### 1. 最近の動き

- 国別研修「福島県との連携によるガーナ人材育成包括研修」調査団
- 教育の分権化に向けて
- 無償資金協力「カンビア地方給水整備計画」EN/GA署名
- 日本・リベリア友好母子病院支援個別専門家派遣
- 国道8号線起工式

##### 2. 健康管理便り

- 今年もハマターンがやってきた

##### 3. ボランティア便り

- 平成21年度3次隊1年報告会
- エレクトロニクス分科会 -PC Skill Upgrading Training Workshop 2010 in Accra- 報告

##### 4. 行く人来る人

##### 5. 2月の予定

さて、私事で恐縮ですが、今回の36回目の「ひとこと」が最後となりました。2007年12月に赴任して早いもので3年がすぎ、今月24日にアクラを発つことになりました。この3年の間に大統領選挙、アフリカカップ（第3位）、オバマ大統領来ガ、ワールドカップ（ベスト8）、石油の商業生産開始、中所得国入り、などアフリカの中でガーナが注目されかつ政治的、経済的な安定を確かなものとする躍動感あふれる日々でした。日本との関係でも皇太子殿下ご訪問、ミルズ大統領訪日、円借款の再開など友好の絆がさらに強くなるとともにODAも新たな協力のステージに入りつつあります。今後もますますJICAの活躍の場は大きくなると思われまます。

シエラレオネでは協力開始時のプロジェクトが終了し、これらの経験も踏まえて第二世代が開始あるいは開始されようとしています。リベリアでは道路状況が良くなり街の人々の表情も和らいで来ました。いずれの国もインフラが未整備な中で専門家、フィールドオフィススタッフも工夫を凝らして業務に邁進しています。それぞれ、来年、今年と大統領選挙を迎えますが、平和裏に選挙が行われ開発の基盤がしっかりとしたものになることが期待されます。JICAも実施体制を充実させて対応していく所存です。

この3年間によりボランティアの皆さんが大きな病気、事故がなく健康で充実感を持って帰国できたことが大きな喜びです。家に帰るまでが任期ですので、お互いに気を引き締めていきましょう。

## 1. 最近の動き

### 国別研修「福島県との連携によるガーナ人材育成包括研修」調査団



ガーナ事務所所員と写真をとる調査団

1月16日（日）から1月22日（土）にかけて、福島県庁から鈴木さん（国際課）、笹山さん（ハイテクプラザ）、中村さん（農業総合センター）、草野さん（土木部）の計4名と、JICAアフリカ部の木村職員がガーナを訪問しました。今回の方々は、今年度から3年間の予定で開始されたガーナ国別研修「福島県との連携によるガーナ人材育成包括研修」で、研修員を既に受け入れた3コース（道路維持管理、稲作振興、産業復興支援）の直接のご担当者であり、ガーナ人にどのような研修を提供したらよいか真剣に悩み、手探りで研修内容を検討してくださった人々でした。

ところで「なぜ福島県との連携を前提に研修が開始されたのか」という点について、勘のよい方ならピンと来るかもしれません。そうです。野口英世博士つながりです。

2008年は野口英世博士没後80年、2009年はガーナ大学にある野口記念医学研究所の創立30周年、そして2010年3月にはアクラで「野口英世アフリカ賞記念シンポジウム」が開催され、皇太子殿下がガーナを訪問されたのは記憶に新しいところです。また、受賞者はその後福島県に招待されて記念講演を行うなど、野口英世博士を通じた福島県とのつながりが再び強まってきていました。それを受けて、JICA本部と福島県庁間で協議があった結果、2010年9月のミルズ大統領訪日時に「3年間で100人以上のガーナ人を野口英世博士ゆかりの福島県との連携で人材育成する」と管総理大臣が表明するに至りました。

研修は昨年10月より「産業復興支援」を皮切りに「稲作振興」「道路維持管理」が実施されましたが、その一方で、福島県の方々にとって「ガーナ人が何を研修に求めているのか」、強い疑問が残る初年度だったといえます。今回はまさに研修員のニーズの背景となる現場を直接見ること、各分野における日本とガーナのギャップや、必要な知識や実務能力のレベルを理解していただいた上で、次年度の研修内容を検討していただくことを目的としていました。

帰国時の報告では、「産業の状況についてよく理解できた（笹山さん）」、「衝撃もあったが光明（ポテンシャル）も感じた（中村さん）」、「視察を増やして座学を減らすほか、広い意味の維持管理を検討したい（草野さん）」、「国民生活の向上という点で行政が果たす役割について気づきを与えたい（鈴木さん）」と、皆さんそれぞれに今回の出張・視察を通じて感じられたところがあり、非常に真摯なコメントを頂きました。また、ガーナを皆さんとっても気に入ってくださり、「専門家やシニアボランティアとして来たい」と仰って頂くなどガーナサポーターが間違いなく増えたことはとても嬉しいことでした。ちなみに、福島県の市外局番と、一般的なMTN携帯番号の最初が「024」で始まるほか、「女性が強い」など、福島県とガーナには以外に沢山の共通事項があるそうです。

（ガーナ事務所 松澤所員）

### 教育の分権化に向けて

教育の分権化に向けての取り組みは、ガーナでは実は早くも植民地時代の1951年から始まったといえます。その年に策定された教育開発計画が地方評議会に学校施設の整備に関する責務を与えています。その後1957年には国が独立、60年代前半には西アフリカで最も教育の進んだ国のひとつという評価を享受しましたが、70年代、80年代には度重なる軍事クーデター、頻繁な政権交代、資金不足等で教育制度はほとんど崩壊に近いほど悪化。しかし1993年に民政移管がなされると、その後政治は安定し、現在の地方分権の基礎となる1992年憲法をもとに、時間をかけて教育分権化への取り組みがなされてきました。

現在では、すべての学校が毎年、スクール・パフォーマンス改善計画 (SPIP) を策定し、生徒数に応じて活動予算を受領しています。またコミュニティと学校の代表からなる学校経営委員会 (SMC) がすべての学校に設立され、学校運営を任されています。郡レベルでは郡年間活動計画 (ADEOP) が策定され、それに対し中央政府及び郡政府から予算がつけられています。そして年度終了後には郡レベルのパフォーマンスを概括し、州へ報告を上げています。



グレートアクラ州教育局長との打ち合わせ

しかし依然として、教員の採用及びカリキュラムの策定などは中央レベルで決定されています。また地方教育事務所の職員はいまだにガーナ教育サービスの管轄下にあり、郡政府の職員ではありません。一方で、郡や学校の計画や報告の内容を見ると、必ずしも質の高いものとは言えないものも多く、間違った統計分析に基づいた報告や、単に国レベルの年間計画を焼き直しただけという計画も少なくありません。郡や学校レベルのマネージメントは必ずしもうまくいっているとは言えない状況にあります。



ユニットの様子

こうした中で JICA 個別専門家の教育分権化アドバイザーが 2010 年 10 月から招致され、ガーナ教育サービスの基礎教育局に新たに設置されたユニットにおいて、特に地方教育事務所のマネージメントの強化を図るために活動を開始しました。

まずは直近の郡年間計画及び年次報告書をすべてレビューして問題点を探ることから始めようとしたのですが、驚いたことに、中央レベルには書類のストックがほとんどないことがわかりました。そこで州事務所から取得しようとしたところ、州レベルにもきちんとストックされていないことが判明。すべての郡事務所から改めて取り寄せてもらうことになりました。この 1 月から 2 月にかけては、10 ヶ所ある州事務所をすべてまわり、私たちの活動について協力を求めると同時に、これらの書類を可能な限り集めてくることにしています。このような状態では、教育の分権化が完全に図られたら、中央レベルには情報のストックがゼロになるということが起こりかねません。地方事務所の強化だけではなく、地方と中央の関係をいかに再構築するかも重要な課題であることを実感しています。

(教育セクター地方分権化支援 金澤専門家)

### 無償資金協力「カンビア地方給水整備計画」EN/GA 署名



生活用水を運ぶ子供

1月20日、在ガーナ日本大使館片上慶一大使とシエラレオネ外務大臣との間で、無償資金協力「カンビア地方給水整備計画」のEN/GA<sup>1</sup>署名が執り行われました (GAの日本側署名者は、JICAガーナ事務所 山内邦裕所長)。

カンビア県の中心カンビア・タウン(約2万人)には、1970年代に建設されたものの、内戦中に破壊された給水施設が稼動しない状態にあるため、現在は住民の6割が井戸、残りは不衛生な河川や小川の水を利用しています。井戸も乾季の後半には水枯れしやすいため、水の確保はままなりません。また、共同トイレはあるものの、下水道がなく、汚水の地下浸透処理の影響で井戸・河川水は深刻な汚染を引き起こしており、住民が慢性的に水系疾病に罹患するなど、決して衛生的とはいえません。そこで、

本プロジェクトは、カンビア県の中心カンビア・タウン(約2万人)に浄水施設を建設し、100ヶ所の公共水栓を通じて、住民へ安全な水を供給します。

<sup>1</sup> EN とは Exchange of Notes の略。日本政府と贈与の相手国政府との間で結ばれる。GA とは Grant Agreement の略。贈与の実施機関である JICA と相手国政府の間で交わされる合意。

ところで、昨年10月、シエラレオネ政府は、ミレニアム開発目標(MDGs)の「目標6: HIV/エイズ、マラリアその他の疾病の蔓延防止」に対する成果と功労を認められ、ミレニアム開発目標賞(MDGs Award)を受賞しました。これはシ国政府とドナーによる開発努力の成果であり、嬉しい限りですが、その他のMDGs達成に向けては樂觀できないのも事実です。MDGsは次世代への守られるべき約束であることを胸に刻み、今回の署名式において、カウンターパート省庁・カンビア県議会と共に私達がなすべきことを再確認することができました。

(シエラレオネ・フィールドオフィス 立田企画調査員)

### 日本・リベリア友好母子病院支援個別専門家派遣

前号にて昨年(2010)年12月22日に日本・リベリア友好母子病院の開業をお知らせしましたが、現在、1日あたり70~100人程度の外来患者が訪れ、10人ほどの新生児が誕生しています。

このような中、1月中旬に梅宮洋亮専門家(医療機材保守管理:第3次派遣)および吉田千有紀専門家(母子保健:第2次派遣)が来られました。梅宮専門家は昨年6月~8月と開院式を挟んだ同年11月、吉田専門家は昨年6月~9月以来の派遣です。今年度は同病院の母子医療サービス提供体制の基盤整備を目標に、これら専門家に要所要所に入っています。



職員と打ち合わせを行なう吉田専門家

今回は梅宮専門家は外務省平和構築支援無償によって同病院に供与された医療機材の保守管理体制基盤構築支援、関連職員への同機材の使用・保守管理指導を行われます。特に、これらの基礎としての医療機材課職員のキャパシティービルディング支援の総仕上げにも注力されます。

他方、吉田専門家のこのたびの主業務は看護師・助産師用業務ガイドライン案の整備と上記医療機材の使用手法指導です。

また、今月(2月)には吉武桃子専門家(病院管理:5S-TQM)も第2次派遣でいらっしゃいます。同専門家には主に総務関連の業務改善・体制構築支援を行っていただく予定です。

8年前まで内戦が繰り返されていたリベリア……14年にわたるこの内戦で多くの人々が教育・訓練の機会を得られなかったため、カウンターパートである病院職員には仕事の進め方、PCの操作等の基礎的な事項にもいろいろと能力不足が見られます。しかし半面、内戦中、物資が乏しく、兵士によって院内が荒らされることがあっても、果敢に母子のために尽力し続け、今も勤務している職員もいます。今後、日本・リベリア友好母子病院に対する人々の期待はさらに高まるでしょうし、この期待にそうした職員が誇りをもって応えられることを最大限支援できるよう、私達もがんばってまいりたいと思います。

### 国道8号線起工式

1月25日国道8号線改修計画の起工式が行われ、マハマ副大統領の他、ギディス道路大臣、片上大使、山内所長など多くの人が参加しました。国道8号線はガーナの経済の中心である首都アクラ、クマシ、タコラディ(ゴールドトライアングル)を結ぶ幹線道路です。この道路は過積載や日頃のメンテナンス不足などにより大きく穴が空いていたり、舗装が剥がれ砂利道になっていたりと損傷が激しく、その安全性に問題があります。本プロジェクトでは、その中でも特に損傷が目立つアシンプラソーベクワイ間の約60キロの改修を、日本の無償資金協力87億円によって行います。改修工事はコンサルタント会社アンジェロセックと徳倉建設の協力のもと2013年までに終了予定です。



スピーチをする山内所長

式典はアシンプラソ橋から約700メートル離れた小学校の敷地を借りて行われ、各出席者の挨拶の中では本件の重要性が様々な視点から述べられました。山内所長は、今回の改修工事がゴールドトライアングルの経済活動の活性化、国内地域間格差の是正、及び国際回廊の整備につながることに言及し、片上大使は更に日本の安全管理や工程管理の規範がガーナに伝えられ、今後の道路整備に役立つのではとの期待を表明しました。マハマ副大統領によると、ガーナ政府は2011年度道路、電力、農業、水供給、教育などのインフラ整備に力を入れるとのこと。日本は過去にもメコン橋や国道1号線などのインフラ支援をガーナに対し行っており、本件を通して更なるガーナへの貢献ができるのではないかと思います。



美しい衣装を着たアシャンテ王族

今回の式典は非常にガーナの伝統や文化を感じられるものでした。アシャンテ州の王族は鮮やかな伝統衣装や金のアクセサリーを身に付けており、全てが手作りです。布には非常に細かな刺繍がしてあります。また、各出席者の挨拶の合間にはダンスパフォーマンスもあり、マハマ副大統領と一緒にダンスを踊る場面もありました。日本とは一味違う式典は非常に興味深く、写真を沢山撮ってしまいました。



ダンスパフォーマンス

さて、私は今回が2度目の8号線の取材です。今回はアンジェロセックや徳倉建設の皆さんに現場を案内して頂きながら、インタビューと撮影を行いました。日本の道路建設の技術力の高さだけでなく、安全管理の意識の高さには驚かされましたが、地元の人々にカメラを向けると怪訝な顔をされる場面もありました。しかし、今回は地元の人々の反応が前回よりも友好的になったように感じました。式典前に授業を覗いた小学校では、いきなり訪ねたにも関わらず「ようこそ。授業を見てもらえて幸運だ。」と歓迎を受け、会場から5分程離れた小さなレストランにトイレを借りに行った際にも、店の奥からわざわざ新しいトイレットペーパーを出してくれ非常に親切に対応してもらいました。地元の人々のこの変化も本プロジェクトの小さな成果かもしれません。

(ガーナ事務所 宮浦在外専門調整員)

### 3. 健康管理便り

#### 今年もハマターンがやってきた

例年より遅れてハマターンが始まりました。しかし、今年のハマターンはかなり強く、空は霞み、家の中まで埃っぽいです。

サハラ砂漠から運ばれた砂塵は、私たちに健康面の害を及ぼしています。乾燥が激しく、皮膚が乾燥したり、口唇が切れたりします。中には、かさかさになった皮膚を掻き過ぎて出血したり、アトピー性皮膚炎のようになっている人もいます。また、喉を痛め、呼吸器感染症をおこし、抗生剤が必要になる場合もあります。そして、目に入った砂塵から結膜炎になることがあります。

予防としては、まずは、うがい、手洗いです。サングラスやマスクも効果があります。のどの乾燥を防ぐ為に水分を多めに摂ったり、就寝時にマスクをするのは効果的です。シアバターやココバターを皮膚に頻りに塗り、皮膚の保湿を図ってください。3月くらいまで続くハマターンを日頃のケアで乗り切りましょう。

(東瀬健康管理員)

## 4. ボランティア便り

### 平成 21 年度 3 次隊 1 年報告会

こんにちは、21 年度 3 次隊の森亜紀奈（獣医・衛生）です。我々 21 年度 3 次隊 10 名は赴任から無事 1 年が経過し、1 月 10～11 日に 1 年報告会を行いました。

私にとってはあっという間の 1 年で、報告会の詳細を知らされた頃は「報告できるようなことなんてまだ何もしていない…」と思っていました。報告会での発表の準備をしながら、客観的にこの 1 年を振り返ると、けっこう自分ががんばったじゃん！と思えること、もっとできたなぁと反省することもあり、そしてこれからの活動についての具体的なイメージがわいてきたりと、報告会そのものだけでなく、その準備過程も含めていい折返し地点になったと思います。また、自分の活動や考えを英語で、限られた時間内で人に伝える、というのは普段の活動にも通じるところがあると感じました。

任地がアクラから遠い私は、日頃は同期隊員と会ってじっくり活動の話をすることも少ないのですが、今回の報告会で他の皆の活動や悩み、試行錯誤の様子など知ることができたのはとても有意義で、全く異なる職種でも同じように悩んだり工夫しながらがんばっているということが励みにもなりました。また、JICA 事務所の方からの質問や励ましの言葉を通して、自分ひとりではたどり着けなかったであろう考え方や視点に気づかされたことも大きな収穫です。

2 日目の意見交換会ではボランティア調整員の方も交え、配属先のモチベーションアップについて皆で意見を出し合い、1 日目の発表だけでは知ることのできなかつた皆の経験や解決策など詳しく聞くことができました。この報告会とその準備期間を通して、これまでの自分の活動を振り返り、今後の目標・活動を明確にすることができ、2 年目突入へのいいスタートが切れました。

これまで、一緒に赴任したメンバーが一人も欠けることなく心身ともに健康に活動に励むことができたのは、ボランティア調整員はじめ JICA 事務所の方々によるご支援、愉快的なガーナ隊皆様の励ましがあったからこそだと思います。今後も、21 年度 3 次隊に対する温かいご指導よろしくをお願いします！

(JOCV 21-3 森 亜紀奈)



平成 21 年度 3 次隊 “Before”



平成 21 年度 3 次隊 “After??”

### エレクトロニクス分科会

#### -PC Skill Upgrading Training Workshop 2010 in Accra- 報告



PC 組み立て実習

2010 年 12 月 21 日～23 日のエレクトロニクス分科会による PC Skill Upgrading Training Workshop 2010 in Accra では、JICA ボランティア 16 名、カウンターパート（以下 CP）9 名が参加し、ボランティアが講師を担当してハードウェアに関する知識の向上を図りました。ガーナ国内で活動する隊員自身に、日々故障する PC のメンテナンスやリペア技術が必要とされていること、また CP のリペア技術の向上が求められている現状に着目し、2009 年 12 月から準備を進めてきました。特に今回の実習では、現在ガーナ国内で世代の異なる PC が同じコンピューター室で使用されている現状を考慮し、双方の取扱い上の相違点を正しく理解できるよう、旧世代 PC と新世代 PC の両方を使用しました。

講義の内容は、コンポーネント、データの安全管理、フリーソフトウェアとライセンス、2010年PCパーツ動向に関する講義、PC組み立て・トラブルシューティング実習、グループディスカッションとその発表というものでした。どの講義においてもCPは講師の話に一生懸命耳を傾け、配られた資料に必死に要点を書き込んでいました。特に組み立て・トラブルシューティング実習では、実際に配属先で使用している、またこれから導入される世代のPCに実際に触れながら、真剣に取り組む姿が印象的でした。3グループに分かれて行ったディスカッションでは、配属先が抱える問題点とその解決策について、CPとボランティアが共に意見を出し合い、時間が足りなくなるほど白熱した議論が繰り広げられました。



研修を通しての感想をそれぞれ発表するCP

休憩時間にもCP同士が情報交換する姿や、ボランティアも交えて配属先の悩みや日本・ガーナ文化について話が盛り上がり、3日間を通して有意義な時間を過ごすことができました。参加したCPからは「とても勉強になった。今後配属先で生かしたい」「また研修会をやってほしい」との声を多く頂きました。この研修会での経験を、CPのフォローアップも含めて今後のエレクトロニクス分科会の活動につなげていきたいです。

(JOCV 22-2 石藤 可苗)